

平成23年度環境測定分析統一精度管理調査結果（本編）（平成24年6月）及び同（資料編）（平成24年6月）の訂正

（平成24年6月に送付させていただきました報告書に誤りがありましたので、以下のとおり訂正し、お詫び申し上げます）

1. 本編

53ページ

（内容）「10）試料の滴定量」の変更（変更前）

CODの試験では、試料の滴定量は4.5～6.5mLになるように試料量（試料の分取量）をとって分析する。したがって、試料の滴定量は「7）試料の分取量」と密接に関係している。

大部分の回答（84.7%）は、滴定量4.5～6.5mLとなっていた。滴定量3.0～4.5mLの回答は14.6%であり、3mL未満及び6.5mL以上の回答は3（0.7%）とほとんどなかった。

分析結果との関係については、滴定量4.5～6.5mLと3.0～4.5mL間では滴定量の少ない3.0～4.5mLの方が平均値が大きく、室間精度CV%が大きかった（室間精度が悪くなっていた）。上記7)に示したように、CODの試験では適切な試料量を取り、適切な滴定量とすることが望まれる。

（訂正）下線部分（変更後）

CODの試験では、過マンガン酸カリウムの残留量が4.5～6.5mLになるようにするため、試料の滴定量としては3.5～5.5mLになるように試料量（試料の分取量）をとって分析する。したがって、試料の滴定量は「7）試料の分取量」と密接に関係している。

大部分の回答（79.7%）は、滴定量3.5～5.5mLとなっていた。滴定量5.5～7.0mLの回答も19.1%あったが、5.5mLに近い値が多かった。なお、3.5mL未満及び7.0mL以上の回答は5（1.2%）と少なかった。

分析結果との関係については、平均値については滴定量2.0～3.5mLと5.5～7.0mLの間及び3.5～5.5mLと5.5～7.0mLの間に有意差があり、滴定量の少ない2.0～3.5mLの平均値は大きく（室間精度CV%も大きく）、滴定量の多い5.5～7.0mLの平均値は小さくなっていた。上記7)に示したように、CODの試験では適切な試料量を取り、適切な滴定量とすることが望まれる。

（表 試料の滴定量に関する解析）

滴定量 (mL)	回答数	平均値 (mg/L)	室間精度	
			S.D. (mg/L)	CV %
1. 2.0未満	0	-	-	-
2. 2.0以上3.5未満	4	238	28.0	11.8
3. 3.5以上5.5未満	334	226	13.5	6.0
4. 5.5以上7.0未満	80	220	12.3	5.6
5. 7.0以上	1	215	-	-

（注）偏り（平均値の差）及び精度の違いは以下の水準間に認められる（危険率5%）。

平均値：2と4、3と4

精度：2と3、2と4

54ページの「（d）総括評価・今後の課題」の7、8行目

（内容）大部分の回答は適切な試料量による適切な滴定量（4.5～6.5mL）となっていたが、試料量が多いときや……

（訂正）大部分の回答は適切な試料量による適切な滴定量（3.5～5.5mL）となっていたが、試料量が多いときや……

2 . 資料編

53ページの表 1 - 2 - 1 - 1 4 (4) 固相抽出 (固相の脱水時間) に関する解析 (ジクロロボス)

(内容) 表中の「2.遠心分離」のうち「2.2 10～30分」・「2.3 30～60分」・「2.4 60分以上」の回答数、平均値及び室間精度

(訂正) 下線部分 (変更後)

表 1 - 2 - 1 - 1 4 (4) 固相抽出 (固相の脱水時間) に関する解析 (ジクロロボス)

脱水方法と脱水時間	回答数	平均値 ($\mu\text{g/L}$)	室間精度	
			S.D. ($\mu\text{g/L}$)	CV %
1. 吸引				
2. 遠心分離				
2.1 10分未満	6	1.11	0.445	40.1
2.2 10～30分	<u>35</u>	<u>1.07</u>	<u>0.264</u>	<u>24.7</u>
2.3 30～60分	<u>1</u>	<u>1.34</u>	-	-
2.4 60分以上 (最大30分)	0	-	-	-

(注1) 偏り (平均値の差) 及び精度の違いは水準間にみられない (危険率 5 %)

(注2) 検定は同じ脱水方法間で行っている。